

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「いのちのメッセージ」

魚津市立村木小学校

5学年児童 12名

平成21年10月22日実施

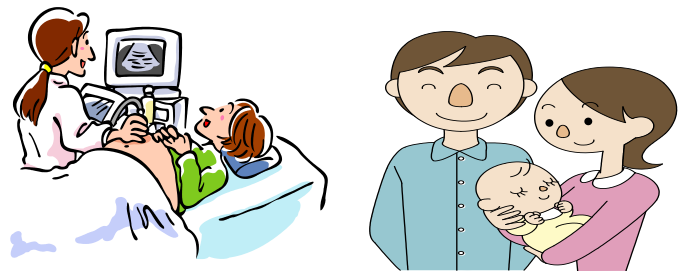
【いのちの先生】

水井 雅子 先生

・みずい母乳育児相談室 助産師

【授業の概要】

- 1 養護教諭の話
- 2 「いのちの先生」の話（水井雅子先生）
 - (1) いのちの誕生の始まり
 - (2) 胎児の成長過程(受精から出産まで)
 - (3) 母体内での胎児の様子
 - (4) 紙芝居「生まれてきてくれてありがとう」赤ちゃん誕生までの家族の苦労や喜び
 - (5) 誕生日の意義
- 3 学習のまとめ



ぼくは、いのちの勉強をして、赤ちゃんは生まれるまでにすごく成長しているんだとびっくりしました。1600gの赤ちゃんの人形を持ってみるとずっしりとした重さでした。お母さんはそれをお腹の中で育てているなんて、すごく大変だと改めて思いました。誕生日は、いのちの記念日だと知りました。誕生日には、お母さんとお父さんに感謝したいです。



私は、赤ちゃんが生まれるまでこんなに大変だとは思っていませんでした。それに、赤ちゃんの最初の大きさが豆より小さい穴ぐらだと知って、とても驚きました。男の人には精子、女の人には卵子があって、それぞれがつながり合って元気でかわいい赤ちゃんが生まれる。やはり女の人一人では、大切ないのちは生まれないから、いのちの大切さが前よりもっと分かりました。誕生日はいのちの記念日だから、その日は家族に「ありがとう」と言いたいです。



私は、今日の勉強を通して、私が生まれるためにたくさんの方が応援してくださったことを忘れてはならないと思いました。特に、お母さんには「産んでくれてありがとう」の気持ちをもち続けなければいけないと思います。赤ちゃんは、お母さんやお父さんがいてこそ宿るとても大切ないのちだと思いました。

